# 現地調査結果

## 2.1. 気象等の状況

調査期間中の気象等の推移を図2-1に示す。

気象庁の堺と関空島の観測所では、ポテンシャル調査を実施した5月の調査の3日間のうち、5月20日に2.5～5mmの降雨が、ポテンシャル調査の前日もしくは2日前となる5月13日には50mm弱、5月19日には10mmを超える降雨が観測された

淀川(枚方)と大和川(柏原)の水位は、両河川とも5月28日の降雨に伴い顕著な水位上昇がみられ、大和川(柏原)では5月20日にも水位の上昇がみられた。大和川(柏原)については、降雨日もしくはその翌日に水位の上昇がみられる傾向にあった。

簡易な藻場手法の効果検証の実施日は、移植日の前日となる5月28日には両観測所で80mmを超える降雨が観測され、確認日には、まとまった降雨は観測されなかった。大阪港波浪観測塔水温と塩分の推移をみると、水深0.5mの水温は7月から8月に30℃前後となり、その後低下して、2月には10℃を下回った。また、塩分は6月から7月に塩分が10程度と低くなる期間が続き、8月以降は概ね20以上で推移した。











|  |  |
| --- | --- |
| ：ポテンシャル調査実施日  ：簡易な藻場創出手法の効果検証移植日・確認日 |  |

※降水量：気象庁アメダス観測データ、水位：国土交通省水文水質データベース、水深0.5m水温・塩分：大阪湾水質定点自動観測データ配信システムより

図2-1　調査実施月の堺・関空島の降水量と淀川(枚方)・大和川(柏原)の水位、大阪港波浪観測塔の水深0.5mの水温・塩分の推移

## 2.2. 調査日の潮位

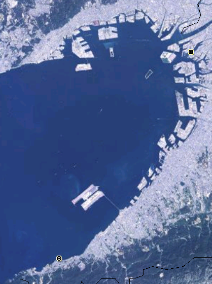
調査実施日の潮位を図2-2に示す。

調査実施日の潮汐は、5月15日と5月29日が小潮、5月20日が中潮、5月21日と2月27日が大潮であった。5月15日と5月29日は概ね下げ潮の時間帯に、5月20日と21日、2月27日は下げ潮から上げ潮にかけての時間帯に調査を行った。









**大阪**

**淡輪**

：ポテンシャル調査時間帯

：簡易な藻場創出手法の効果検証時間帯

※潮位：気象庁潮位データより

図2-2　調査実施日の潮位

## 2.3. ポテンシャル調査

### 2.3.1 現地計測および分析試験

多項目水質計を除く現地計測結果と採水試料の概観、分析試験結果を表2-1(1)～(5)に示す。

いずれの調査時も天候は晴もしくは曇であった。

透明度は2m台～6m台であり、5月20日と5月21日調査を実施した堺2区人工干潟(護岸)、堺第7-3区、泉北6区、新浜地区では、最も北側の堺2区人工干潟(護岸)の2m台、最も南側の新浜地区の4～6m台と南の海域ほど透明度が高かった。一方、5月15日に行った新浜地区と阪南4･6区では透明度が2m台と低かった。5月15日は調査前の5月12日から13日にかけて気象庁の堺および関空島の両観測所で60mm程度の降雨が観測されたことから、降雨から数日間は出水による影響が残っていたものとみられる。

水色は、堺2区人工干潟(護岸)や堺第7-3区では出水の影響とみられる黄系の色が明瞭であった。なお、採水試料については、いずれの地点も臭気や着色・濁りはみられなかった。

分析試験結果については後述する。

表2-1(1)　現地計測および分析試験結果(堺2区人工干潟(護岸))



※赤囲みは採水地点を示す。



表2-1(2)　現地計測および分析試験結果(堺第7-3区)





※赤囲みは採水地点を示す。

表2-1(3)　現地計測および分析試験結果(泉北6区)





※赤囲みは採水地点を示す。

表2-1(4)　現地計測および分析試験結果(新浜地区)





※赤囲みは採水地点を示す。

表2-1(5)　現地計測および分析試験結果(阪南4･6区)





※赤囲みは採水地点を示す。

### 2.3.2 水質(現地計測)

多項目水質計による水質計測結果を図2-3(1)～(5)、表2-2に示す。

水温は、15.5～19.9℃の範囲にあり、各海域で概ね同程度であった。

塩分は、17.2～32.3の範囲にあり、堺2区人工干潟(護岸)や新浜地区では20を下回る塩分がみられた。堺2区人工干潟(護岸)は5月21日に、新浜地区は5月20日に計測を行っており、5月19日～20日の降雨により近傍河川からの出水の影響があったものと考えられる。なお、塩分低下に関して、堺2区人工干潟(護岸)については大和川からの出水によるものと考えられるが、堺第7-3区や泉北6区、阪南4･6区では上層での大きな塩分低下がみられていないことから、新浜地区については、近傍の大津川や周辺の小河川等の影響があった可能性が考えられる。

クロロフィルは0.7～12.7ppbの範囲にあり、新浜地区の上層で最も高い値が計測された。

濁度は0.3～34.6FTUの範囲にあり、各海域とも下層の海底付近で高くなる傾向にあった。

pHは、7.9～8.6の範囲にあった。pHが高い値を示した新浜地区では、pHが高くなる層ではクロロフィルも同様に高い値を示していたことから、植物プランクトンの増殖により、pHが高い値を示したものと考えられる。

DOは、3.3～13.7mg/Lの範囲にあり、いずれの地点も上層から下層にかけて低くなる傾向にあった。なお、新浜地区ではDOが高くなる層ではクロロフィルも高い値を示していたことから、pHと同様にDOの高い値も植物プランクトンの増殖によるものと考えられる。

光量子は、各海域とも同様な減衰を示す傾向にあったが、クロロフィルの高かった新浜地区ではNo.6とNo.7がNo.1～No.5に比べ、中下層で相対光量が低くなる傾向を示した。

表2-2　水質計測結果(最小、最大、平均)



|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

図2-3(1)　水質計測結果（堺2区人工干潟(護岸)）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

図2-3(2)　水質計測結果（堺第7-3区）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

図2-3(3)　水質計測結果（泉北6区）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

図2-3(4)　水質計測結果（新浜地区）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

図2-3(5)　水質計測結果（阪南4･6区）